

実践記録（小6・社会）

1 単元 日本の歴史 町人の文化と新しい学問

2 ねらい

「どのような文化・学問か」「代表的な人物（や書物）」「当時の人々に与えた影響」という3つの観点で、まとめ学習や意見交流を行うことで、学習問題に対する考えをより深めることができるようにする。

3 手立て

・ 二者択一の学習問題

「より大きな影響を与えたのはどちらか」という二者択一の学習問題を示すことで、自分の考えをもちやすくする。また、グループで意見共有しながら学習する際にも、根拠となる情報を探したり、グループ内でそれを共有したりできるようにする。


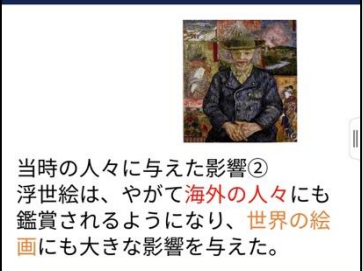
・ 観点カード


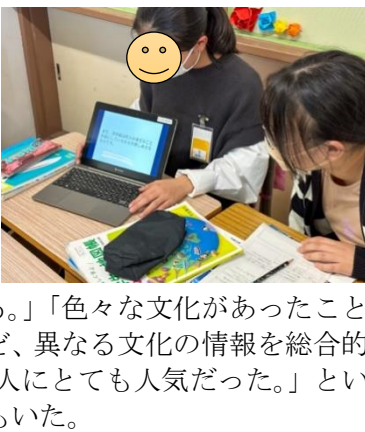


共通した観点を与え、その観点ごとに情報を整理できる「観点カード」を用意することで、「歌舞伎と浮世絵」「蘭学と国学」などのように異なる文化や学問の情報を総合的に捉えられるようにする。また、共通した観点を与えることで、自分と違う課題を選択した児童の発表を聞きながら、情報を整理することができるようにする。

4 指導計画（7時間完了）

- (1) 江戸や大阪のまちと人々の暮らしについて知ろう・・・1時間
- (2) 町人の文化について調べ、まとめよう・・・2時間
- (3) 町人の文化について、まとめたことを発表しよう・・・1時間
- (4) 新しい学問について調べ、まとめよう・・・2時間
- (5) 新しい学問について、まとめたことを発表しよう・・・1時間

5 実践の様子

時数	主な学習活動	
第1時	<p>(1) 江戸や大阪のまちと人々の暮らしについて知ろう</p> <p>第1時では、江戸や大阪のまちの様子や人々の暮らしを描いた絵図を見たり、NHK for schoolの動画を視聴したりしながら、町人の文化が栄え、新しい学問が興った様子について学習した。</p> <p>動画を見ることで児童は「当時の人々により大きな影響を与えたものはどちらなのか」を判断し、それを裏付ける根拠となる情報を、さらに詳しく集めていく動機付けになった。</p>	 <p>蘭学の広まり</p>
第2時	<p>(2) 町人の文化について調べ、まとめよう</p> <p>第2時からは、「江戸時代後半の町人の文化のうち、当時の人々に最も大きな影響を与えたものは何だろうか」という学習問題に対する自分の考えと、それを裏付ける根拠となる資料をまとめたプレゼンテーションをロイロノートで作成した。</p> <p>第2時では、まず観点カードを使って教科書や資料集から情報を集めて整理し、そこから個人でプレゼンテーションの流れを決めた。児童は教科書や資料集の写真を活用し、「芝居小屋という一つの場所に多くの人々が集まり、その町が賑わったため、歌舞伎が大きな影響を与えたと言える。」や「浮世絵は海外の人々にも鑑賞されていて、世界の絵画にも大きな影響を与えている。」など、様々な考えをもつことができていた。</p>	 <p>当時の人々に与えた影響② 浮世絵は、やがて海外の人々にも鑑賞されるようになり、世界の絵画にも大きな影響を与えた。</p>

<p>第3時</p>	<p>第3時では、学習問題に対して同じ考えを選択した児童で構成した「制作グループ」の中でまとめの制作を進めた。制作グループの中では、それぞれがプレゼンテーションのリハーサルを行い、お互いに助言をしながらより良いまとめにする活動を行った。</p> <p>「この説明には資料集の写真を使うといいよ。」「この言葉は大切だから、もっと目立たせた方がいいね。」「自分もその資料使っている？」など、積極的に助言し合う児童の姿が見られた。</p>	
<p>第4時</p>	<p>(3) 町人の文化について、まとめたことを発表しよう</p> <p>第4時では、学習問題に対して異なる考えを選択した児童で構成した「発表グループ」の中でまとめの発表を行った。発表を聞いている児童は、観点カードを使って、情報を整理していった。</p> <p>その後、観点カードに整理した情報を振り返った。「歌舞伎や浮世絵を比べると、どのようなことが分かるだろうか。」と問い掛けると、「歌舞伎役者の浮世絵が流行ったことから、互いに関わっていることが分かる。」「色々な文化があったことで、江戸や大阪の街がにぎわったことが分かった。」など、異なる文化の情報を総合的に捉えた意見があがった。しかし一方で、「どちらも町人にとっても人気だった。」というように、共通点をあげるだけに留まってしまいう児童もいた。</p>	
<p>第5時 ～ 第6時</p>	<p>(4) 新しい学問について調べ、まとめよう</p> <p>第5時から、「江戸時代後半の学問のうち、当時の人々に最も大きな影響を与えたものは（蘭学と国学）どちらだろうか」という学習問題を設定し、第4時までと同様に、プレゼンテーションを作成していった。</p> <p>ここでは、3つの観点のうち、特に「当時の人々に与えた影響」に重点を置き、制作グループでリハーサルを行う際も、「自分の考えの根拠をいくつ示しているか」という視点を与えると、自分が気付かなかった根拠について、積極的に自分のまとめに取り入れようとしたり、自分の考えにつながるように説明の仕方を考えたりする児童の様子が見られた。</p>	
<p>第7時</p>	<p>(5) 新しい学問について、まとめたことを発表しよう</p> <p>第7時では、第4時と同様の形式で意見共有した。前時までと同様、3つの観点のうち、特に「当時の人々に与えた影響」に重点を置いて、観点カードに情報を整理していくように伝えた。</p> <p>第4時では、異なる文化を比べて共通点や相違点を挙げるだけに留まってしまっている児童が見られたため、「蘭学や国学といった学問が広がったことから、どのようなことが分かるだろうか」というように、比較するだけでなく総合的に「学問」としても捉えられるようにした。すると、「人々が世界の国々や政治に関心をもつようになった。」や「一揆や打ちこわしも増えていったことから、政治に対する不満が高まっていったことが分かる。」など、蘭学と国学が与えた影響を、総合的に捉えている児童の様子が多く見られた。</p>	

## 6 成果と課題

- 二者択一の学習問題を提示したことにより、明確に自分の考えをもって学習に臨めただけでなく、「どうすれば説得力が増すか」という視点で積極的に情報を集めたり、グループで意見交流したりすることができた。

- 観点カードに情報を整理したことで、異なる文化や学問の情報を総合的に捉えることができた。
- 児童の発表には情報量が多く、観点カードにメモをするので精一杯になってしまっている姿が多く見られたので、まとめを作らせる段階で、内容を精選できるような手立てを打つ必要があると感じた。また、観点カードの形を見直したり、何を重点的にメモするのか伝えたりすることも必要であった。
- 観点カードにより、異なる文化や学問の情報を総合的に考えられるようになった児童がいた一方で、共通点や相違点を探すということに終始してしまっている姿も見られた。そのため、発表を終えて情報を整理した後、その情報をどう分析していくかについては、教師の発問の工夫が不可欠であると感じた。

出典：NHK for School「蘭学の始まり」

[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das\\_id=D0005310094\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310094_00000)